



2008 AUTOBACS SUPER GT ROUNDS

Pokka 1000km

37TH INTERNATIONAL POKKA 1000KM

鈴鹿サーキット国際レーシングコース 1周 5.807km

8.23^{SuperLap} sat 24^{Race} sun

SUZUKA CIRCUIT

- 大会名称：2008 AUTOBACS SUPER GTシリーズ第6戦 第37回 インターナショナル ポッカ1000km
- 併催レース：フォーミュラ4西日本シリーズ第5戦 / Netz Cup Vitz Race 2008 関西シリーズ第3戦
- 主催：鈴鹿モータースポーツクラブ(SMSC) / 株式会社モビリティランド
- 冠協賛：株式会社ポッカコーポレーション
- 公認：国際自動車連盟(FIA) / 社団法人日本自動車連盟(JAF)
- 認定：GTアソシエーション

SUPER GTは、GT-R圧勝からNSX、SC430との三つ巴の大接戦に！ 今年も真夏の耐久「ポッカ1000km」がシリーズの行方を決める！！ 新「GT-R伝説」は、伝統の1000kmレースで新たな歴史を刻めるか！？



トヨタ レクサスSC430

SUPER GTシリーズ、今季開幕戦の鈴鹿ラウンドは大きな衝撃に包まれた。5年ぶりにレースシーンに復活したニッサンGT-Rの本山哲/B・トトレイエ組が優勝、M・クルム/柳田真孝組がこれに続き、デビューレースで1-2フィニッシュを飾ったのだ。GT-Rは続く第2戦でも本山組が2連勝。松田次生組がこれに続き、またも1-2フィニッシュの強さを見せた。だがライバルたちがいつまでも黙っているわけではない。GT-Rに対抗すべくマシン開発を重ね第3戦で逆襲開始。予選でHonda NSXの道上龍/小暮卓史組がPP(ポール・ポジション)を獲得すると、トヨタSC430の立川祐路/R・ライオン組が2番手。決勝では立川組が優勝し、脇阪寿一/A・ロッテラー組がこれに続き、今度はSC430の1-2フィニッシュだ。



ニッサン GT-R



Honda NSX

そして再び迎える鈴鹿ラウンド。だが今回は開幕戦とは大きく様相が違う。GT-R圧勝からNSX、SC430を加えた三つ巴の状況に変わったのだ。加えて決勝は最も過酷だ。SUPER GTは通常300kmのレース距離で争われ、長くても500kmだ。それが通常の3倍以上もの1000kmを走らなければならない。すでにこの1000kmで結果を残しているNSX勢、SC430勢に対してGT-Rは初めて経験する長丁場レース。そのハンディを跳ね返してGT-Rが真夏の鈴鹿を制するのか、NSX、SC430勢が本来の強さを見せるのか!? いずれにせよポッカ1000kmを制することは強さの証明でもあり、タイトルにぐっと近づくことを意味する。それだけに各陣営ともポッカ1000kmに照準を合わせているのは確実。今シーズン最も激しい戦いになるのは間違いだろう。

そしてこれはGT300クラスも同じ。開幕戦鈴鹿で井入宏之組RX-7が優勝すると、第2戦は新田守男/高木真一組ガライヤ、第3戦はルーキーの2人、平手晃平/国本京佑がドライブするMR-S(ライトニング・マックインチーム)が初優勝だ。また開幕戦の予選では高橋一穂/加藤寛規組の紫電がPPをゲットするなど、GT500を超える接戦、混戦となっている。GT300も同様にこの鈴鹿がタイトル争いの鍵を握ることは間違いない。GT500を超えるバトルが展開されるはずだ。

数々の名勝負を生んだ、歴史と伝統が息づく、ポッカ1000km。 勝者を称える花火が戦いのフィナーレを告げる



ゴール後には花火が打上げられる

今年で37回目の開催を迎えるポッカ1000kmは、国内の自動車レースで最も古い歴史を持つレースで、これまで数々の名勝負が繰り広げられてきた。第1回大会が開催されたのは1966年で、優勝したのはトヨタ2000GTだった。80年代に入るとプロトタイプ車の戦いが続き、ポルシェ、トヨタ、ニッサンがしのぎを削った。90年代後半には日欧米のGTカーの戦いとなり、97年、98年にはFIA-GT選手権として開催され、メルセデスCLK-GTRがポルシェ911GT1、マクラーレンF1GTRとの激戦を制して優勝。

そして99年に優勝したのがHonda NSXだった。その後は国産GTカーの時代を迎えNSX、トヨタ・スープラ、ニッサン・スカイラインGT-Rの戦いとなり、一昨年から伝統の1戦はSUPER GTシリーズの1戦として開催されることになったのだ。今年も伝統の1戦にふさわしい、歴史に残る戦いとなるのは間違いないだろう。

SUPER GTシリーズの中で唯一、全車が色とりどりのヘッドライトを点灯し、激しくも美しい戦いを繰り広げるのが、ポッカ1000km。サーキットが夕闇に包まれた後に、感動のゴールを迎える。それぞれのマシンが趣向や工夫を凝らしたヘッドライトを点灯して走行するが、この1戦のみの特別仕様として補助ライトを備えるマシンや、また識別用にマーカーランプを輝かせるマシンもあり、それらの光が流れるようにサーキットを駆け抜ける様子は幻想的すらある。そしてゴール後に打ち上げられるのが勝者を称え、全てのドライバー、チームの健闘を称える花火だ。大輪の花が次々と鈴鹿サーキットの空に打ち上げられ、熱く長く、そして激しかった戦いの終わりを告げる。



夕闇の中、ライトを点けたGTマシンが競う

6月24日(火) チケット発売開始!

[価格は全て税込]

前売観戦券		
大人 (パスポート付)	ペア(大人2名) (パスポート付)	中高生 (入園のみ)
5,000円	9,000円	1,600円

前売指定席券 決勝日のみ有効・別途観戦券必要・A・C・Eエリア入場可能		
V指定席	S1指定席	S2指定席
5,000円	2,000円	1,500円

前売ファミ得チケット A・C・Eエリア付き(決勝日のみ有効) パスポート付き(土・日いずれか1日)		
大人2名 + 子供1名(3歳以上高校生以下)	追加券 大人	追加券 子供 (3歳以上高校生以下)
13,000円	6,000円	3,000円

前売エリア指定席付き観戦券 A・C・Eエリアは決勝日のみ有効 パスポート付き(土・日いずれか1日)	
大人観戦+A・C・Eエリア	6,000円

※3歳～高校生以下の方の当日券はゆうえんち入園料となります。
 中学生/1,600円・小学生/800円・3歳～未就学児/600円
 ※高校生以下の方は、A・C・Eエリアへ無料でご入場いただけます。
 ※観戦券(一部券種を除く)にセットされているパスポート(レース開催日
 いずれか1日有効)は「ゆうえんちのりもの乗り放題モトピアパス
 ポート」となります。
 ※指定席券は決勝日のみ有効です。
 ※ペアチケットは前売りのみの発売で、2名セットとなります。
 ※エリア指定席付観戦券は前売りのみの販売となります。
 ※V、S1、S2指定席券をお持ちの方は、A・C・Eエリアへの入場がで
 きます。(混雑時は入場制限させていただく場合があります)
 ※V、S1、S2指定席をご利用の場合、3歳以上共通料金となります。
 ※前売指定席券完売の場合、当日指定席券は販売いたしません。
 お早めにお求めください。

■**ご案内:** 大人のお客様は、ゆうえんちモトピアパスポートでは、本レースをご観戦いただけません。

●レース決勝日のゆうえんちモトピアパスポートをお持ちの大人のお客様が、本レースご観戦をご希望の場合は、別途追加料金1,800円にてご観戦いただけます。

●中・高生のお客様は、ゆうえんち入園料のみで本レースをご観戦いただけます。

★VIPスイート/VIPテラス/Hondaファンシート/TOYOTAファンシート/ADVANファンシートも販売! 詳しくはHPをご覧ください★

鈴鹿、もてぎのチケット・グッズが同時に買える新オンラインショップ
 詳しくは <http://mls.mobilityland.co.jp/> にアクセス! **MOBILITY STATION**

チケットのお求めは	券種によってお取り扱いのない窓口もございます
■鈴鹿サーキットレースチケットセンター	6月24日(火)～8月23日(土)まで(販売時間 10:00～17:00)
■鈴鹿サーキット電話通信販売 ☎059-378-1100(通販専用)	6月24日(火)～8月17日(日)まで(販売時間 10:00～16:00)
■MOBILITY STATION http://mls.mobilityland.co.jp/	6月24日(火)10:00～8月18日(月)9:00まで(24時間受付)

6月24日(水)～8月23日(土)(一部販売期間が異なる店舗がございます。)
 ●電子チケットぴあ ●セブンドリーム・ドットコム ●CN プレイガイド ●ローソンチケット ●イープラス
 ●セブンイレブン ●ローソン ●ファミリーマート ●サークルK・サンクス ●am/pm
 ※コンビニには時間帯に制約があります。※販売店によって、一部取り扱いのない券種があります。

チケットに関するお問い合わせ: 鈴鹿サーキットレースチケットセンター ☎059-378-1111(代)

鈴鹿サーキットは園内施設の点検・整備のため、6/17(火)・18(水)を休業とさせていただきます。